

食事プロトコール

摂食・嚥下に対して何らかの問題がありそう...

例えば...

- ・高齢者
- ・低栄養
- ・脳血管疾患の既往あり
- ・認知症
- ・誤嚥性肺炎の既往あり(繰り返す)
- ・発熱を繰り返している

内服だけでも確認を

評価: フードテスト(FT)
※覚醒していることが条件(軽い刺激で開眼する程度)

歯科・口腔外科で義歯調整は可能。ただし、修理や作成には2週間以上の日数は必要。

評価
1~3

むせない
残渣ない
(少ない)

評価
4

- ・むせない
- ・呼吸状態に変化がない
- ・発熱しない
- ・ペースよく8割摂取(30分以内が目安)

- ・むせない
- ・呼吸状態に変化がない
- ・発熱しない
- ・ペースよく8割摂取(30分以内が目安)
- ・歯(義歯)がある

むせる
残渣多い
ゴロゴロ言う

食事はまず中止
STへ依頼

なめらか食

やわらか食

1口大

- ・むせる
- ・口腔内に残渣が多い
- ・呼吸状態の変化がある(荒くなる、頻呼吸など)
- ・発熱する

- ・むせる
- ・口腔内に残渣が多い
- ・窒息しそう
- ・呼吸状態の変化がある(荒くなる、頻呼吸など)
- ・飲み込みに時間がかかる
- ・送り込みが困難

食事形態を上げたけど、気になることがあれば元の食事形態に戻してください

H27年8月作成 NST委員会
R2年5月改訂

フードテスト(FT)・ゼリーテスト

<準備>

アメニティセットのスプーン
水分ゼリー

☆患者の覚醒(軽い刺激で開眼する)
☆患者の意欲(スプーンを近づけると口を開けるなど)

- ①アメニティセットのスプーンに水分ゼリーをすり切り1杯取る(写真A参照)
- ②患者の口腔内(舌の真ん中)へゼリーを置く
- ③飲み込むかどうかを確認
- ④飲み込んだ後、口腔内に残渣がないか確認
- ⑤ムセはなかったか、ゴロゴロ言っていないか確認



写真A

※見やすいように水分ゼリー以外のゼリーを使用

<評価>

- 1: 嚥下なし むせるand/or呼吸切迫
 - 2: 嚥下あり 呼吸切迫(誤嚥性肺炎の疑い)
 - 3: 嚥下あり 呼吸良好 むせるand/or湿性嚙声
口腔内残渣中等量
 - 4: 嚥下あり 呼吸良好 むせない
口腔内残渣ほぼなし
- ※迷ったら悪い点数を採用

食事写真



<なめらか食>

- ・1200kcal/日程度
- ・食材ごとにペースト→味付け、増粘剤で固める
- ・保温機で温めることで温かい食事の提供も可能



<やわらか食>

- ・1200kcal/日程度
- ・食材ごとに酵素液につけて加工→調理
- ・様々な食感
- ・朝はなめらか食と同じ



<一口大>

- ・できあがった通常の食事を1cm大へカット

各種治療食には対応可能です。
アレルギーは要相談となります。
エネルギー不足は補食で対応となります。

H27年8月作成 NST委員会
R2年5月改訂